

高校ラグビー部が自衛隊駐屯地で生活体験



自衛隊神奈川地方協力本部平塚地域事務所（所長 児玉 憲幸 1等陸尉）は、8月20日（火）から22日（木）までの3日間、陸上自衛隊松戸駐屯地（千葉県松戸市）において関東補給処松戸支処の協力を受け、平塚学園高校ラグビー部に対して自衛隊駐屯地での生活体験を支援しました。これは学校側から「精神修養のため自衛隊での生活を体験したい」との要望を受け実現したもので、部員30名、マネージャー4名、顧問2名の36名が参加しました。

初日は団体行動の体験（挨拶・行進等）、体力向上運動、ドローン塗り体験、座談会、2日目は応急救護の体験、団体行動競技会、3日目は広報展示室・落下傘整備工場等の見学などが行われ、駐屯地での3日間の生活体験が終了しました。

生徒たちからは、「1時間を守ること、規律の大切さがわかりました」、「団体行動で全員の動作を合わせるのが難しかったが、団結の重要性を理解できた」等の感想があり、「チーム一丸となって頑張っていた」という意気込みが感じられ、充実した生活体験となりました。

平塚地域事務所は、「自衛隊を正しく理解し興味を持ってもらえるよう、今後も様々な広報活動を実施していきたい」としています。



厚木航空基地見学を実施

自衛隊神奈川県地方協力本部（本部長 大谷 三穂 1海佐）は、8月30日、海上自衛隊第4航空群及び第61航空隊の支援を得て、海上自衛隊厚木航空基地見学を実施した。当日は台風10号も危惧されたが、現地には多数の参加者が集まり無事に見学を実施することができた。

基地見学は午前の部と午後の部の2部構成で、午前の部は、資料館のほか、哨戒機「P-1」及び地上救難班を見学した。参加者は、「P-1」の機体を間近にして「大きい」「カッコいい」と興奮した様子で現役搭乗員の説明に聞き入っていた。見学中、離陸する「P-1」も見ることができ、「おー」と歓声が上がった。地上救難班見学では、隊員の迅速な出動準備等を感じた様子で見学した。

午後の部は、資料館のほか、連絡機「LC-90」及び管制塔等を見学した。「LC-90」の見学では、実際にコックピット席に座り乗員からの説明を受け、「このスイッチは？」、「この画面は？」など、見たことのない多数の機器に興奮した様子で、気持ちは空の上といった感じであった。管制塔見学では、実際の航空管制の現場を見て、航空安全の重要性や自衛隊の職種の広さに驚いた様子を示していた。ただし雨天により管制塔からの「絶景」を見ることができなかったことは残念であった。終始本降りの中で見学が行われたが、参加者からは笑顔や真剣な眼差しが見られ、自衛隊について多くの質問をするなど興味を示し、充実した表情で基地を後にした。

神奈川地本では「今後も各部隊の支援を得ながら基地見学を積極的に実施し、自衛隊の魅力伝えるとともに、効果的な募集業務を実施し人的基盤の拡充に努めていきたい」としている。



①地上救難班見学

②地上救難班見学

広報資料館見学

LC-90見学